

次世代先生

# 座談会!

“ - Theme - ”

4月から教員になる，次世代先生に伺いました。  
教職を選んだきっかけや夢，そして……。

こんな先生になりたい!

こんなことが不安!



大学時代に学んだことで，現場で役に立つと思うことや体験



東京学芸大学  
修士課程2年

糸日谷 真央

私は学部，大学院の6年間で小学校の体育科教育を専門に学んできました。現場の先生方の授業研究会や大学の講義等によって，学ぶことの本質的なおもしろさを味わわせることが重要であることを学びました。そのような授業ができる教師になりたいと思っています。



東京学芸大学  
修士課程2年

三枝 志帆

非常勤講師を経験させていただいたことで，学校現場の実態に触れることができました。講義やゼミ活動で学んだ授業づくりや授業研究の視点がさらに広がったように感じています。また，子どもとの多様な関わり方も勉強になっています。



東京学芸大学  
修士課程2年

佐藤 悠太郎

ゼミ活動で行った，発達障がいの子どものためのスポーツ開発です。子どもたちの視点に立って，ゼミ生と協力しながらスポーツを開発した経験は，今重要なインクルーシブな視点をもった授業を行うことや，その視点を生かした教材開発につながるのではないかと思います。



東京学芸大学  
4年

原田 雄太

体育科教育学を専門とする先生の研究室に所属したことで，多くの授業研究会に参加できました。現場の先生の生の授業を見たり協議に参加させていただいたりしたことは，自身の教職意識を高めることにつながり，今後の教師生活で役に立つ経験であったと思います。



## どうして先生を目指したの？

**【佐藤】** 小学校2年生のときの担任が大好きで、クラスの雰囲気はそれほどよい感じではなかったのですが、学校がめちゃめちゃ好きになりました。4年生になったときに担任は変わりましたが、その先生のことを本当に好きで、その先生が顧問だったマーチングのクラブ活動に入りました。マーチングを今でも続けているきっかけになった先生です。そんな先生になりたいと小学生の段階から今まで全くぶれずに思い続けています。

**【糸日谷】** 先生を目指したきっかけに、思い出の先生がいるということはありません。小学校のときは、二人の先生に担任してもらいました。担任の先生の存在感はそんなに意識しなかったのですが、学校はとても楽しかったです。実習をやってみて、担任してもらった先生方はベテランの先生ならではの学級運営力があったんだなということを実感しました。学校の先生がいたから教職に就きたいと思ったのではなく、後から振り返って先生ってすごかったなということを感じました。

**【原田】** 小学校のころはやんちゃ坊主で、担任が大嫌いで、怒られてばかりでした。でも先生を目指したきっかけは、単純に両親が先生だったことなのかなと思います。いざ自分が何になりたいか考えたときに、身近にある職業が先生でした。教員養成大学に入って教育実習をしてみて、実際に子どもと触れ合ったことで、単純に子どもと生活することが自分はいちばん楽しんだということに気づきました。

**【三枝】** 私もそうです。両親が高校の教員で、部活ももっていたので、親についていって、部活をしている先生と生徒の関係を見ていて、私も先生になると何となくイメージしました。

## 教育実習はどうだったか？

**【糸日谷】** 体育の授業でリレーの実践をしましたが、そのときに、走ることや運動やリレーが大嫌いだったと話していたある6年の女の子が「先生、すごくりレーが楽しくて好きになったよ。」と言ってきて、そのときに本当に先生っていいなと思いました。それが教育実習のいちばんの思い出です。自分自身の力不足を実感する経験もしたのですが、楽しさの方が強かったので、実習で先生という職に就く思いが強化されました。

**【原田】** 純粋に実習が楽しかったです。授業が楽しかったというのがありますが、実習の最終日に別れるのがつらくて、子どもたち全員が泣いてくれるという経験をしました。もちろん実習生という特別感があったと思いますが、子どもから愛されるということはどういうことなんだとやりがいを感じました。先生としてこんな授業がしたいという夢もありますが、根幹はこういう子どもたちとの関係性にあると気づき、先生っていい仕事だと思いました。

**【三枝】** 大学3年生で附属小でした実習は、1クラスに数名の実習生がいて、すごく楽しかったのですが、大学4年生の公立小の実習では、1クラス一人で、いろんな教科の授業を一日に何時間もするという経験をして、大丈夫かなと思いました。子どもと関わっていることはすごく楽しいのですが、仕事として考えたら、授業っていちばん大事なことだし、子どもと関わっているばかりではないので、実習で不安が増えました。

**【佐藤】** 実習はマイナスかプラスかと言われればプラスになりました。自分自身が考えてやる授業は楽しかったし、子どもたちの反応や関わりは楽しいと思いました。でも、小学校のころからなりたいたいと思い続けてきた職業がリアルに目の前に来たときに、「職業」なんだと思う部分が大きかったです。先生ってキラキラしているものだと思っていましたが、職員室で考えていることとか、一人の子どものことを考えていることなどがあることも具体的に分かり、これってやっぱり仕事なんだと感じられました。

## 先生って忙しそう。不安は？

**【糸日谷】** 先生が忙しいことはよく分かっていますので、私が考えていることは、とにかく配属が決まった学校の近くに住むということです。勤務時間内の仕事の内容を減らして、自分の中で優先順位をつけて効率化したいとは思いますが、1年目2年目は教職の経験がない中で、何が大事なかが分からないので、自分の体を壊さずに仕事を一生懸命しっかりやっていくには、学校の近くに住むという手段をとって、時間を捻出してやっっていこうと思っています。

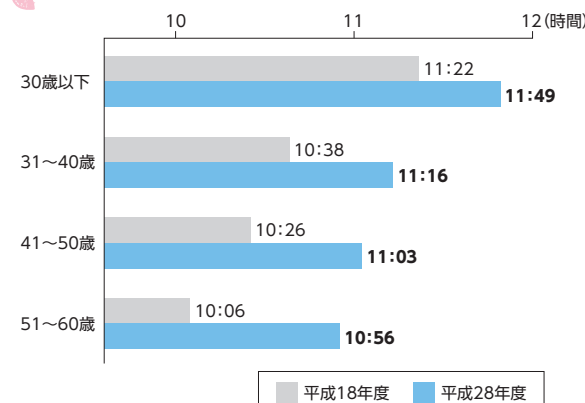
**【佐藤】** どこまで絶対にやらなければいけないかが分からないですよ。ほくは、性格的にある程度は決められるとは思っていますが、絶対にやらなければいけないことばかりだったら大変だと思います。

**【原田】** 自分の裁量では決められない現状があると思います。ほくは、職員室の雰囲気によって帰る時間などを判断すると思います。

**【三枝】** 私も自分の裁量では決められません。優先順位をつけるのが苦手、要領がよくないので心配です。

**【糸日谷】** どんな管理職の先生で、どんな指導教諭の先生かによりますよね。その先生方にどのように思われているかだと思います。どういう環境に4月から入るのが未知数だから不安です。どんな学校の雰囲気かは入ってみなければ分からないので、ある意味楽しみだけれど、いちばん心配な部分でもあります。

【小学校教員 一日当たりの勤務時間】



(教員勤務実態調査/平成28年度確定値・文部科学省調べ)

## 先輩との関係づくりどうする？

**【原田】** 職場の先輩が困っていることを見つけて、「一緒に出来ることはないですか?」と話しかけて、それをきっかけにするなどがよいと思っています。自分からの相談ごとばかりでなく、お互いウィンウィンになるような感じで、物事に取り組めたらよいというのが理想です。

**【佐藤】** 愛嬌が必要なんじゃないでしょうか。それこそ、おもしろいと思われる部分が必要で、人としておもしろいと思われたいです。それが嫌な人もいるだろうし、目立つのは嫌だとも思いますが、頑張っているところを見せて、「こいつはかわいげがあるな。」と思われたい、にこにこしていたいと思います。

**【三枝】** 私は、挨拶が大事だと思っています。「おはようございます!」などの朝の挨拶は、とても大事なんじゃないかな。若い声が響く職員室っていいと思います。

**【佐藤】** 職場で味方になってくれる先生を探すと思います。話せる先輩の近くにいたいと思います。

**【三枝】** 私も、とにかく先輩方に近寄っていく、そばにるようにします。そうすると必ずコミュニケーションがおきくと思うからです。

**【原田】** 仕事があるのに先輩先生に飲みに誘われたとしても、そういう機会をいただけるということに有難味を感じて付き合うようにしたいと思います。



## 子どもをやる気にするには?

**【佐藤】** 授業がいかにおもしろいかなと思います。そして勉強が好きになって、自分が輝けることや好きなものがあるぞと思えることによって、自己肯定感が高められるのだと思います。でも、先生になった先輩に聞いたのですが、おもしろい授業を提供しても、その授業を受けようという姿勢すらないのが自己肯定感が低い子どもたちなのだそうです。そうなると、どうすればよいのか見当が付きません。

**【原田】** やる気になるのにいちばん大事なものは、その子が褒められることだと思っています。

**【糸日谷】** 他者からの肯定的評価で自己肯定感を高めることになりやすいですね。私は自己肯定感が低くないのですが、その理由を考えたとき、自分がスポーツで実績を出してきたことがあるのだと思います。実績は他者からの評価でもあるからで、“自分にはこれがある!”という感覚ですね。自分の好きなことをやってさらにそれが評価された、結果が出せたというのが自己肯定感を高めているのだと思います。子どもに対しては授業だけでなく、生活指導や普通の学校生活の中など、いろんな場面で褒めるとよいと思っています。

**【三枝】** 中学で非常勤をしています。自分に自信がないのか毎日暗い表情で学校に来て、“体育の授業はやる気がないから見学します。”というような生徒がいました。「これだけでもやって」と働きかけて、“あなたがいるからこれができる。”というようなことを見つ

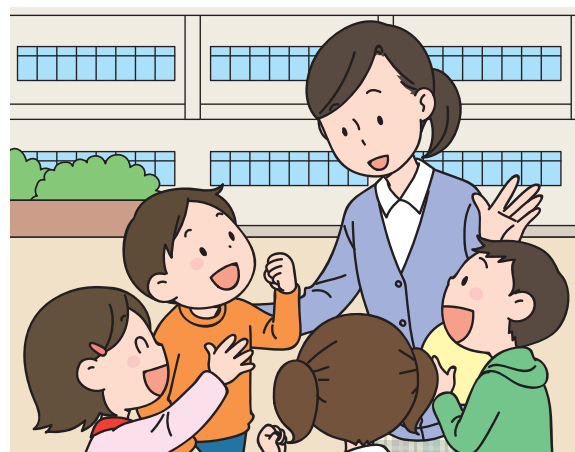
けて与えてあげてみました。得点係とかちょっとしたことでも認めてあげて、その子を主役に出来る場面をつくってあげると、その子は変わってきました。居場所や役割を与えてあげることが大事なのだ実感しました。

## 子どもたちを理解するには?

**【原田】** 教育実習で教わったのは、座席表に気づいたことをとにかく書いていくことです。授業観察ですね。一人ひとりに対して気づいた特徴を細かいことでもよいので書いておくと、いざ自分が授業をやるときに楽でした。自分の中で応用ができました。

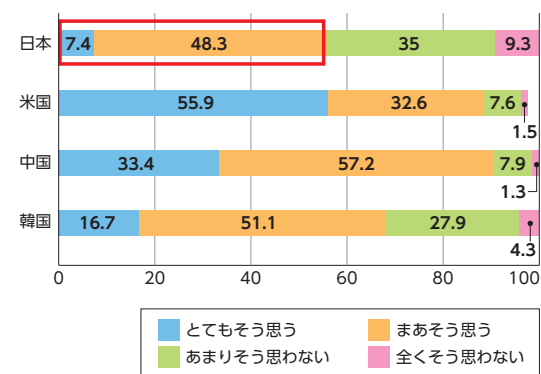
**【糸日谷】** 私の実習先では、自分の授業だけではなく、他の実習生の授業の記録もつけることになっていました。他者の授業は客観的に見とれるので大切だということでした。一日の中でその子どもが輝いた場面、よかったところとか、やる気になったところとかをひと言くらいずつ毎日記録していました。先生になったら、休み時間もできるだけ子どもたちと一緒に過ごして、いろんな面を見て記録するというのをしたいと思っています。

**【三枝】** とにかく子どもと話して、コミュニケーションを増やすことだと思っています。一人ひとりの子どもが考えていることを全部聞くのは難しいとは思いますが、授業中でも、休み時間でも、たくさん話をしたり授業の感想ノートを見たりするのがよいと思っています。



### 【高校生の意識に関する国際調査】

Q:わたしには人並みの能力がある。



**【佐藤】** 教育実習で授業をしている中で、子どもたちの目がすごく気になっていました。こちらをすごく見ている子どもと、違うところを見ている子どもなどいろいろいました。なので、ほくがやろうと思っていることは、1時間の授業の中で全員と目を合わせるということです。忙しくて毎日記録をとったり、感想にしっかり目を通したりする時間もない場合は、最低限、一人ひとりの目をしっかり見てあげることによって、その子のことが理解できるのではないかと考えています。

**【糸日谷】** 私は、理解しにくい子どもがいたら、学校だけでなく、その子がどういう環境で育って、どういう子なのかということを保護者の方とか、前の学年の先生などからお聞きしようと思います。その子自身からだけでは見えてこない部分の情報収集をして、周りの部分からでも理解してみようと考えます。

**【佐藤】** ほくは、小学校の宿泊行事の引率の手伝いをしたときに、先生という立場を超えて、一人の人間として子どもと向き合うと、その子の見え方が変わってくる、その子が自分を見る目が変わってきたということを経験しました。本当につかめない子どもがいたときには、先生と子どもという関係ではなく、人と人としての関わりを意識することも大切ではないかと思いました。

**【三枝】** 小学校のころを振り返ったときに、あまりにも縦の関係が強い先生は苦手だった記憶があるので、子どもとの「上下関係」というのはあまり好きではないです。横並びすぎても違うと思いますが、支えるというか“一緒に”という関係でありたいなどはと思っています。

## チャレンジしてみたいことは?

**【原田】** 新任としてチャレンジしてみたいことは、子どもたちとの交換日記をしたいと思っています。コミュニ



ケーションするとはいっても、話すより書くことが好きな子どももいると思うので、子どもと同じ目線で話したり、返事を書いたりしてあげたい。内容はくだらないことでもよいと思っています。子どもからしたら、“先生は分かってくれている。”というような認識につながる気がします。そうした試みを大切にしたいと思っています。

**【三枝】** 学級通信の題名を何にするか考えています。非常勤先の中学校の担任の先生は、毎日、子どもたちの様子が分かる写真と簡単な手書きのコメント付きの学級通信を出していました。子どもの様子を保護者に伝えているのがすごくいいなと思いました。保護者は自分の子どもの学校での様子が分かって安心できると思うからです。その先生は高跳び専門の先生だったので、学級通信タイトルは「ウルトラジャンプ」としていました。下段部には切り取り線があり、保護者から何かあればメッセージを書いてくださいというものでした。意外とそこに書いてくる保護者もいると聞いたので、その形式もいいなと思いました。子どもの様子を何らかの形で保護者に発信していきたいという気持ちはあります。



# こんなクラスをつくりたい!

## 華のあるクラス

抽象的ではありますが、華やかさのある、カッコいい、イケている、一人ひとりが自信に満ち溢れている熱いオーラがあるクラスにしたいと思います。



原田 雄太さん

## 一人ひとりが主役のクラス

自分が、そのクラスの中でやりたくてやっているという状態、一人ひとりが主体的にやりたいと欲しているような活動に取り組んでいると結果的に輪にもなるだろうし、同じ方向を向いていることになると思うので、まず主体性を大事にしたいと思います。



糸日谷 真央さん

## 「輪」をテーマにしたクラス

輪は、思いやりをもって、みんなと接してほしいという願いです。ちょっとしたことでもお互いに気づいて触れあってほしい。みんなで繋がっている感もほしいので、「和」ではなくて「輪」を考えました。



三枝 志帆さん

## 「愛」みんながLoveのクラス

子どもたちと相思相愛でいたい。みんながぼくのことを好きだし、ぼくもみんなのことを好きだし、子どもたちはクラス仲間たちのことみんなが好きという関係をつくりたいとすごく思っています。



佐藤 悠太郎さん

### ～座談会を終えての感想～

- 先生を目指している人たちとこのようなテーマで話ができ新鮮でした。
- 今回のように、先生になってからの話を口に出すと、「決意になる!」と思いました。
- あいまいだった、先生という職業に対する自分の思いを再確認できてよかった。
- 何年か経ったら、今の気持ちがどう変わって、それぞれがどう頑張っているか、何に悩んでいるか語り合いたい。